第 31 回 三遠南信サミット 2023 in 遠州 住民セッション報告

1　日　時　　2023 年 10 月 30 日（月）10：00～12：05

2　会　場　　グランドホテル浜松 2 階　桃山の間

3　テーマ　　三遠南信の将来を見据えた住民団体の連携活動
　　―気づきから連携を再構築する―

4　目　的

三遠南信住民ネットワーク協議会（2012 年 6 月発足）は、発足以前から愛知、静岡、長野の県境域で地域づくりを実践する住民団体同士が、三遠南信地域の県境を越えた交流と連携活動に関心を持ち、手を結んで交流を重ね、つながりを深めてきた。

こうしたなか、2020 年 3 月以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により住民団体の活動は停滞したものの、2023 年 5 月から 5 類感染症に移行したことによりさまざまな制限等が緩和され、コロナ禍前の活動に戻りつつある。今後はコロナ収束を見据えた新しい交流のあり方や地域づくり活動が求められ、それに対応することが必要となる。

そこで、今回の住民セッションでは、コロナ禍の経験を踏まえて三遠南信地域の県境を越えた住民団体の連携活動を再確認し、これからの交流・連携・協働のあり方や課題について考える。

5　プログラム

開会あいさつ　　代表世話人　山内秀彦

趣旨説明　　事務局　平川雄一

第 1 部　【話題提供】民俗芸能保存・継承活動と連携の取り組み
「三遠南信の民俗芸能 継承と連携の動き」
上嶋裕志氏
（浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会・姫街道連絡協議会 姫街道未来塾会長）
「演者と観客の新しい関係を考える」
高田孝典氏（奥三河ふるさとガイド）

第 2 部　【意見交換】交流研修会事業報告と連携企画の提案
事業報告後，それに基づきワークショップ方式が提案・意見交換会を実施
ファシリテーター：監事　水島加寿代

総括・閉会あいさつ　　副代表世話人　清水良文

6　住民セッション要旨

（1）【話題提供】民俗芸能保存・継承活動と連携の取り組み

話題提供①　「三遠南信の民俗芸能：継承と連携の動き」

上嶋裕志（浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会・
姫街道連絡協議会 姫街道未来塾会長）

・寺野ひよんどり・懐山のおくない・川名のひよんどりの民俗芸能が国指定となってから独自で活動していたが、3 つ連携して活動しようと協働ポスターや祭のガイドブックを制作した。
・ひよんどりの活動が認められ、「浜松市全体の連携を」と浜松市文化財の委託のもと 19 団体から始まり、現在 22 団体が連携し、それぞれの活動を紹介する広報誌を年 2 回発行している。
・現在、連絡会は浜松の消えた神々たちのお面の調査をしており、佐久間町の調査はほぼ完了した。今後は、水窪町と春野町となる。
・川名のひよんどり　浜松学院大学　1 月 4 日の本番に向かって学生が祭の舞を習う。
・神澤おくない　浜松市民応援隊として一般市民が参加
・懐山おくない　コロナ禍や高齢化で廃絶が予想されたが、連絡会の提案で懐山出身の若者が中心となり、人集めから始めて練習を開始し来年はじめて公演を行う。
・浜松市無形民俗保護団体連絡会と南信州民俗芸能継承推進協議会との連携があるが，残念ながら東三河の無形民俗芸能団体との連携ができていない。

話題提供②　「演者と観客の新しい関係を考える」

高田孝典（奥三河ふるさとガイド）

・伝承、伝統をなんなのか，演者の減少，高齢化の問題で存続の危機に晒されている。
・民俗芸能は周期伝承している。毎年、ある時期の、ある場所の、ある人によって伝承されているのは当たり前のことだが，近年は社会構造の変化によって崩れてきている。
・昭和初期ころの民俗芸能の姿が、鎌倉～室町時代から変わらない姿で継承されてきたわけではなく、その時代時代に応じた姿に変化することを受け入れることが重要である。
・今後、演者と観客をもっと近づけることが民俗芸能を継承していく上で重要となる。
・「演者の 364 日」といい、観客が演者の里を訪ねることや、双方が一緒に準備から本番、後片付けまでを行えば，ただの観客ではなく、演者とみなることができるのではないだろうか。
・民俗芸能を継承していくためには、新しい血をどんどん入れてその人たちが演者になることがいくこと必要である。
・民俗芸能は、無形民俗文化財ですから道具の古さや、装束の豪華を自慢するものではない。例えば、面が滅失してプラスチックの面になったとしても，演者が生き生きと舞を舞っていれば無形民俗文化財として十分に通用すると思うし、これからは考えていかなければならない。
・それがいまに生きる芸能ということができるし、伝統を重んじ伝統のエキスを十分吸い取りながら新しい伝統をつくっていくことをみんなで考えていくことが重要である。
・新しいことをすることが伝統を疎かにしたりすることではない。

（2）第 2 部【意見交換】交流研修会事業報告と連携企画の提案

●交流研修会事業報告

・ぽたび体験ツアーは，8 名（うち 2 名は非会員）が参加し、東栄町内の本郷、中設楽、下田を中心にコース設定された約 12km を 3 時間かけて巡った。3 時間程度の周遊であったが東栄町にはさまざまな魅力的なポイントが多く，新しい発見があった。また、各所に高低差があったが電動アシスト自転車を利用していたため快適に走行できた。

・交流研修会では、一般社団法人東栄町観光まちづくり協会の取り組みについて、「設立経緯」「東栄町観光まちづくり協会の取り組み」「ぽたび（自転車ガイドツアー）について」「これから目指す観光まちづくり」などについて説明を受けた。

［当日の様子］

●連携企画の提案

・自転車を活用して地域を巡ることは観光の要素として有効である。

・電動アシスト自転車で少人数かつちょうどいい距離設定で巡ることができた上、地元を愛しているスタッフがガイド役として地域を案内する取り組みがよかった。

・電動アシスト自転車なら普段自転車に乗らない人でも山道を登ることができる。

・三遠南信の生活や営みの維持を考えることの 1 つとしてサイクルツーリズムの取り組みも有効な手段である。

・例えば観光情報などの発信も各自治体だけで行うのではなく，連携して取り組む必要がある。

・連携には参加する人たちの様々な選択肢を持つことができることが重要である。また、若い世代が活動団体を立ち上げてきているので情報発信も活動も連携して進められることを期待している。

・三遠南信全体で伝統芸能，観光などさまざまなテーマを持ち寄った課題解決型の取り組みを住民主体で，行政や経済界と連携した実施することも考えていくことを提案する。

（3）総括

1 年 365 日のうち、364 日は三遠南信の各地域を回ることができたたらいいなと思い浮かびました。364 日、三遠南信を歩き回って三遠南信を楽しんでもらえれば思う。そしてみなさんとの対話によって三遠南信の暮らしや営みが見えてくると思うので、交流を続けて次につなげていきたいと思う。

7　住民セッション写真

第 1 部【話題提供①】
話題提供者　上嶋裕志氏

第 1 部【話題提供②】
話題提供者　高田孝典氏

第 2 部【意見交換】
ファシリテーター　水島加寿代氏

会場全体の様子